



近世說美少年錄

三編  
三



13  
3567  
13



門 13  
 號 3567  
 卷 13

近世説美少年録第三輯卷之三

東都 曲亭主人編次



論を聴て順政賊情を知る  
 陳々落葉恩赦を乞ふ

再説安保前五郎直躬の貞多と朱之介と細て権輿に乗一人を傭る。早くと  
 立野の陣所へとあるゆふより重長も告知せしむ。又四下郡に里人もあつて、  
 一の愁は和鮮られて、緯の障りあるものやせんと、豫く思ひよるとて、その時大和の國主を  
 ける陽舜坊順政の。彼此の更の邪正と民の愁訴と知らん為。前五郎の件の訴  
 封内を巡歴せし。且く立野の陣所在り、あま越年せられ。然程に國守順政  
 く本城を赴く。及ぶ。躬て陣所へおてある。緯はとて、然程に國守順政  
 いの目民の訴を聴果て。も退くとせられ。折有司。前五郎が稟す。とて、

美少年録第三輯卷之三

文藝堂藏

早稲田 大學 図書館  
 昭 34 6. 3 燹  
 藏 書

る小より。不依回注。所其有坐。其の雑兵。とて。笠前五郎。と坪の内。召入れ。と。訴。討。は。と。尋。ら。る。登。時。笠。前。五。郎。の。索。合。を。つ。め。坪。の。内。朱。之。介。と。奥。多。も。共。侶。を。牽。入。れ。て。我。對。し。額。を。打。て。姓。名。を。告。ぐ。と。述。て。懐。疑。を。お。け。訴。書。を。お。ま。り。ま。る。一。個。の。有。司。受。と。り。高。ち。小。讀。み。け。順。政。の。ち。聽。く。お。れ。笠。前。五。郎。汝。の。何。多。の。好。む。と。朱。之。介。を。留。措。せ。る。抑。他。の。何。処。の。め。と。問。れ。笠。前。五。郎。頭。と。搦。ま。い。這。朱。之。介。の。武。藏。上。り。來。つ。る。旅。客。を。在。下。交。遊。の。好。む。も。と。宿。野。の。苗。措。は。ひ。ひ。新。婦。奥。多。と。密。通。を。結。既。申。分。明。と。那。奴。們。が。密。會。の。折。を。現。ひ。挫。け。形。の。ご。く。小。細。め。此。彼。俱。推。累。し。や。敷。果。果。え。を。輒。け。れ。も。守。あ。の。怨。み。を。お。と。私。の。罪。を。お。明。地。お。訴。ま。つ。と。御。刑。伐。を。願。ふ。の。多。這。奴。も。か。頭。と。劾。る。と。怨。を。釋。さ。せ。ぬ。と。稟。上。順。政。う。ち。や。え。又。朱。之。介。と。奥。多。を。對。ひ。て。今。笠。前。五。郎。が。稟。せ。て。汝。の。密。通。を。お。素。より。相。違。あ。ら。ぶ。欲。と。問。ま。し。ま。さ。る。朱。之。介。早。や。答。難。と。と。奥。多。の。阿。容。を。氣。色。も。ま。く。膝。を。找。め。ま。す。御。誼。を。

は。れ。も。賊。妾。の。素。より。朱。之。介。と。不。軌。せ。し。ま。の。多。良。人。の。今。朝。も。平。城。の。と。所。要。あり。と。と。と。男。婢。們。の。物。買。を。や。る。隙。に。朱。之。介。賊。妾。を。拘。め。挑。を。聽。き。縊。殺。せ。し。め。た。け。お。粥。も。る。と。有。敷。子。命。の。惜。け。れ。僅。よ。の。意。を。任。じ。る。折。り。良。人。の。め。り。來。し。輝。の。あ。ま。及。ぶ。の。一。旦。他。は。後。け。の。実。情。を。お。は。は。れ。る。その。情。由。の。證。据。を。會。合。の。ま。ま。良。人。は。知。れ。て。怒。の。烈。め。り。え。ひ。と。も。聽。れ。せ。ど。お。ま。の。怨。を。受。け。口。を。封。じ。た。り。お。折。一。時。の。怒。を。任。じ。て。俱。に。憎。と。ま。る。年。來。賊。妾。が。心。操。の。笠。前。五。郎。を。誰。か。知。る。無。乳。母。も。優。志。を。お。慈。悲。の。ご。の。義。を。會。買。を。お。ま。り。と。以。瞞。と。則。て。朱。之。介。の。驚。く。ま。お。と。成。ま。し。と。い。ひ。て。且。と。順。政。に。又。笠。前。五。郎。を。對。し。目。今。奥。多。が。陳。せ。し。と。汝。も。具。は。は。ら。ん。と。い。ひ。お。ま。り。と。問。れ。て。笠。前。五。郎。頭。と。傾。け。寔。に。奥。多。が。稟。せ。し。と。他。の。年。來。標。正。く。取。ら。る。の。多。の。め。り。朱。之。介。も。實。を。お。ま。り。と。強。言。せ。ら。れ。し。け。れ。汝。の。義。の。覺。期。仕。と。志。通。守。の。お。威。勢。の。と。朱。之。介。を。問。せ。ぬ。虚。實。定。く。お。

る。ふゆを順政の領より借とる。とされ朱之介の一時の出来心にて理を  
 真と犯せし故に隠す。首伏せよ。あの期に及て詭飾ら骨を拘り。実を吐かせ。有  
 つ。伏し。真まじや。既系し。向れ。朱之介の。ま。嗟嘆し。跪き。真まじ。仰ら。け。む。り  
 以ぬ。真まじ。その。あり。下と。相。かく。後。た。ま。も。既。枕。と。正。て。の。五十。歩  
 逃。百。歩。と。ま。た。の。謀。も。似。え。何。の。方。も。密。通。の。悪。名。負。重。め。て。一。然。り。と。標  
 正。と。譽。ら。他。妻。と。這。身。と。傳。罪。多。れ。真。まじ。不。便。の。状。と。願。は。義。の  
 い。下。盤。纏。の。為。と。ま。る。沙。金。三。百。両。の。宿。所。の。あり。の。金。を。前  
 五。郎。贈。の。罪。と。贖。の。標。正。に。真。まじ。の。下。亦。罪。を。免。れ。他。縛。へ。赴。く。と。ら。下  
 の。義。を。前。五。郎。の。教。諭。の。納。せ。られ。守。の。元。慈。悲。の。言。願。ひ  
 なる。と。入。り。つ。ま。ま。順。政。の。領。を。前。五。郎。彼。の。妻。朱。之。介。の。貯。藏。沙。金  
 三。百。餘。両。と。汝。納。て。身。の。罪。贖。ん。と。願。ふ。甚。麼。の。美。を。免。と。願。は。前。五。郎

の。合。文。多。額。と。有。る。原。脚。説。と。美。の。ゆ。の。世。の。男。子。の。原  
 の。妻。と。強。姦。せ。り。情。由。を。朱。之。介。の。愆。悔。と。新。見。を。  
 沙。金。三。百。餘。両。と。納。て。罪。を。贖。ん。と。願。ふ。執。念。深。き。守。の。元。慈。悲。の。言。願。ひ  
 似。つ。も。あ。り。つ。ま。相。違。の。の。も。あ。つ。ま。順。政。の。領。を。前。五。郎。彼。の。妻。朱。之。介。の。貯。藏。沙。金  
 の。ど。ち。は。順。政。の。領。と。朱。之。介。の。領。と。は。是。前。五。郎。の。愆。悔。と。新。見。を。  
 向。後。の。品。を。や。と。も。向。れ。て。沙。金。を。渡。す。相。違。の。何。れ。の。品。を。和。譚。の。  
 事。改。り。と。も。順。政。の。領。と。朱。之。介。の。領。と。は。是。前。五。郎。の。愆。悔。と。新。見。を。  
 の。許。容。も。一。條。の。罪。科。の。誰。の。這。奴。と。も。納。め。と。列。下。知。難。兵。四。五。名。齊  
 一。阿。と。心。々。左。右。一。度。ふ。走。り。着。り。て。前。五。郎。の。被。倒。し。押。へ。索。を。被。り。前。五。郎。大  
 く。駭。慌。て。在。下。犯。せ。罪。の。い。ま。の。ゆ。も。果。を。順。政。の。阿。と。冷。笑。ひ。て。海。を。罪。さ。る。  
 元。は。比。の。比。より。七。比。曾。寺。の。柳。土。三。尾。加。賀。四。郎。が。獨。子。を。復。四。郎。の。少。主。を。欺。たる

引入れて賭まき托てる財宝を許し掠奪する。復四郎が親加賀四郎が懇請して。
 その更初をせよ。因ては捕縛と勘問せよ。折る。汝の密書を許して。
 且那一義と聞きて。その許と聴試。その情夫婦竊賊也。朱之介が所持した
 金と奪ん為よ。妻の奥より密通するもの。有徳。信朱之介も良から。
 金と奪ん為よ。妻の奥より密通するもの。有徳。信朱之介も良から。
 計較する。然れ亦知る。
 今飽き。歐懲。その実を吐く。當り。辞烈く下知せれる。
 雜兵の美り。心なる。推伏せ。登。葛。管。揚。三。廿。廿。歐。
 管。放。一。と。叫。雜。兵。止。起。推。居。當。下。位。前。五。郎。
 朱之介の盤纏を言く。の。旅。客。で。い。へ。
 遂。宿。所。留。措。良。良。技。と。薦。め。その。金。を。更。り。い。ひ。敵。

足らぬ。故。と。那。復。四。郎。も。引。入。れ。首。様。々。々。不。堪。又。彼。者。の。有。財。も。言。く。
 入。の。胸。箒。用。の。外。小。張。公。酒。喫。ま。れ。本。公。も。醉。は。れ。
 亦。朱。之。介。が。美。少。年。多。と。辞。か。ま。く。候。待。れ。朱。之。介。の。感。入。り。
 擲。ち。て。あ。れ。も。用。送。せ。し。沙。金。を。二。百。兩。の。もの。を。それ。を。更。入。と。計。せ。
 來。ま。り。の。那。技。と。奪。ひ。か。の。他。の。奥。と。密。會。ひ。折。小。捕。へ。奪。へ。
 他。の。金。も。買。り。取。る。人。情。も。大。宅。沙。金。も。他。の。沙。金。も。罪。贖。金。
 欲。ま。り。も。備。剛。の。死。所。も。然。と。計。せ。
 之。介。の。那。沙。金。も。罪。贖。金。願。ひ。既。小。十。二。分。の。數。あり。金。を。奪。ひ。追。せ。
 思。い。い。た。の。明。る。と。候。境。小。の。憲。断。也。伎。倆。を。察。せ。

加賀四郎が許すよと良の技を... 當りといふも大慈大悲の大師... 矢張り首伏をさす... 前五郎が既ふも首伏をされ... 彼等も大衆を知らぬ... 女房奥さんと密通して野の陣所... 里長と四郎の... 里長一人の怒り... 里長里人共侶... 這時... 素一と... 示して...

銭財の使用... 嚴の下知せられ... 們のおおる... 介とつて... あり... る... 困果... 慄る... 腹ら... 盗賊... 悍く下知せ...

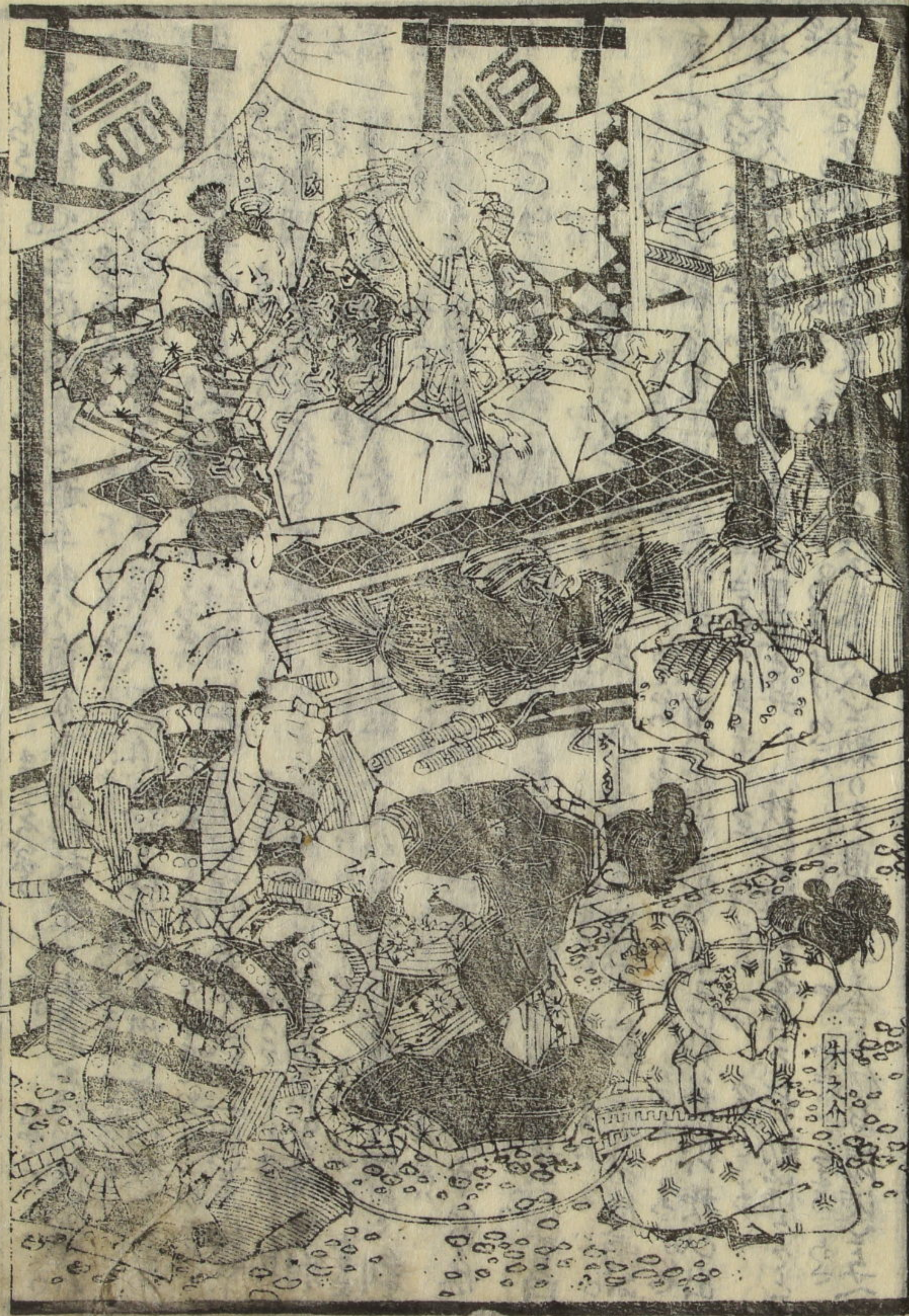
人の謹言（けんげん）のけのま限（かぎり）をくは生（な）平（へい）も倍（た）倍（た）と叶（な）まて。訖（し）聴（き）召（め）され、公（こう）卿（けい）疲（つか）勞（らう）をぞ  
 わらん今（いま）宵（よ）と獄（ごく）舎（しゃ）へ遣（は）して。後（ご）日（にち）脚（きやく）詮（せん）議（ぎ）あるはのそ。あも長（なが）と願（ねが）ひせんと。西（さい）京（きやう）を順（じゆん）政（せい）主（しゆ）  
 えうと。然（さ）らば彼（かの）奴（やつ）も禁（かん）獄（ごく）せら。その餘（あま）ののけは。信（しん）々（ざんざん）と。町（ちやう）寧（ねい）不（ふ）宜（ぎ）披（ひ）。あの日（ひ）の聽（き）果（こ）つら  
 然（さ）程（ほど）は。前（まへ）五（ご）郎（らう）夫（ふ）婦（ぷ）と。朱（しゆ）之（し）公（こう）が。立（た）野（の）の獄（ごく）舎（しゃ）を。敷（し）きれる。聲（こゑ）の風（かぜ）言（げん）隠（かく）れら。そ。く上（かみ）  
 市の御（ご）へ。安（やす）え。斧（おの）柄（がら）駭（おど）ら。敷（し）き。難（がた）な。母（はは）の。命（いのち）を。咱（ぼん）所（しよ）天（てん）の。林（りん）示（し）微（び）せ。れ。と  
 の風（かぜ）声（こゑ）を。後（ご）の。致（し）され。あ。ま。ま。ま。ま。の。甲（こう）斐（はい）も。武（ぶ）藏（ざう）の。命（いのち）を。安（やす）保（ほ）の。信（しん）引（ひ）れ。ん  
 彼（かの）人（にん）許（もと）潛（ひそ）居（ゐ）る。又（また）禍（わざはひ）を。讓（ゆる）さ。その。身（み）の。破（やぶ）滅（めつ）も。及（およ）ぶ。自（みづか）業（ごう）自（みづか）得（とく）と。い。ま。く。の。ま。あ。れ  
 女（め）妹（い）と。は。の。縁（えん）を。結（むす）び。恩（おん）義（ぎ）を。た。げ。能（よ）く。も。救（きう）ひ。人（ひと）を。道（みち）の。缺（か）き。作（しや）成（せい）何（なに）と  
 あ。そ。う。ら。ん。や。向（むか）ひ。の。目（め）と。押（お）拭（ぬぐ）ひ。落（お）葉（は）の。雪（ゆき）の。領（うりやう）院（いん）で。然（さ）らば。那（あの）人（にん）の。風（かぜ）声（こゑ）の。五（ご）体（たい）も。詳（あ）し  
 安（やす）れ。れ。滅（めつ）り。ら。限（かぎり）の。ゆ。ま。左（ひだり）さ。右（みぎ）さ。る。尋（たづ）ね。思（おも）ひ。人（ひと）を。救（きう）へ。ん。と。ま。ま。れ。現（げん）彼（かの）人（にん）の。満（み）情（じやう）  
 る。怨（うら）みの。為（ため）の。身（み）の。安（やす）危（あや）も。ま。ぬ。ぬ。鳥（とり）嶺（りやう）の。白（しろ）物（もの）を。と。只（ただ）一（ひと）日（にち）の。恩（おん）を。義（ぎ）心（しん）感（かん）し。く。と。あ。く

你（あなた）と。妻（つま）の。世（よ）を。う。た。て。ま。人（ひと）を。知（し）ら。ず。一（ひと）言（こと）の。浅（あ）慮（りよ）。を。ま。る。る。命（いのち）。前（まへ）五（ご）郎（らう）と。い。い。と。思（おも）ふ。と  
 の。睛（は）ま。の。寄（よ）る。方（かた）目（め）子（こ）も。あ。る。あ。れ。就（つ）て。も。世（よ）間（ま）に。入（い）ら。ぬ。人（ひと）の。稀（うづか）し。の。ま。る。ま。る。と。人（ひと）の。不（ふ）実（じつ）を  
 怨（うら）む。仇（あだ）の。あ。ひ。ま。ら。ば。共（とも）に。不（ふ）実（じつ）の。人（ひと）と。ま。る。て。人（ひと）の。心（こゝろ）を。ま。れ。ま。れ。今（いま）一（ひと）回（かい）救（きう）へ。ん。と。い。ひ。け。は。い  
 の。高（たか）竊（せき）に。里（さと）正（しやう）乃（の）糸（いと）と。故（こ）老（らう）達（た）ち。相（あ）譚（だん）。つ。願（ねが）書（かき）。を。立（た）野（の）の。脚（きやく）陣（じん）の。ま。ま。の。命（いのち）を  
 せん。為（ため）に。准（あ）ら。わ。れ。大（おほ）い。敷（し）き。あ。る。聖（せい）の。夙（しやく）早（はや）と。立（た）野（の）へ。参（まゐ）り。恩（おん）救（きう）を。願（ねが）ひ。せ。ら。ん。心（こゝろ）を。ま。る。人（ひと）の  
 又（また）命（いのち）運（うん）ぶ。ま。る。の。上（かみ）に。救（きう）へ。ん。果（こゝろ）敢（あは）れ。と。い。い。尾（び）に。と。病（やま）を。煩（わづら）ひ。ひ。と。と。尉（い）め。ら。れ。て。又（また）袖（そで）濡（ぬ）  
 る。と。斧（おの）柄（がら）の。ゆ。ま。曾（あ）も。苦（くる）く。も。有（あ）る。時（とき）を。脱（だ）脱（だ）る。雄（ゆう）々（ざうざう）と。親（おや）の。計（はかり）の。目（め）感（かん）し。且（かつ）  
 救（きう）へ。ん。又（また）い。ま。も。ま。る。ら。り。有（あ）る。徳（とく）而（に）。の。詰（つ）朝（あさ）。落（お）葉（は）の。里（さと）の。故（こ）老（らう）人（にん）の。伴（ばん）を。立（た）野（の）陣（じん）  
 所（ところ）に。赴（おもむ）け。又（また）向（むか）へ。所（ところ）に。告（つ）げ。と。縁（えん）由（よし）と。稟（りやう）を。こ。這（こ）回（かい）然（さ）ら。獄（ごく）に。せ。ら。れ。朱（しゆ）之（し）公（こう）の。落（お）葉（は）  
 る。と。昔（むかし）昔（むかし）縁（えん）の。ま。ま。と。武（ぶ）藏（ざう）の。河（か）踰（ゆう）の。木（き）を。た。は。れ。酒（さけ）宿（しやく）所（ところ）を。田（た）を。見（み）斧（おの）柄（がら）と。妻（つま）  
 る。と。又（また）他（た）に。資（すけ）した。沙（さ）金（かね）如（ごと）く。西（さい）の。河（か）踰（ゆう）に。施（せ）主（しゆ）を。て。如（ごと）く。如（ごと）く。来（き）禪（ぜん）師（し）を。請（こう）せ。と。佛（ぶつ）像（ざう）

許り造らんと。曩も朱之介が這地來つ。便り不就。件の金と齎せし。朱之介の  
 禪師の替り。はなれり。又のふもせん。禪師。一。河内。入。り。て。件の禪師の  
 報。沙金。返。え。ら。ふ。と。その意。任。し。て。起。せ。し。前。五。郎。が。悪。心。を。竊。ま。る。路。  
 出。抑。留。め。ま。る。と。誘。へ。宿。所。に。藏。措。せ。し。世。の。風。声。を。聞。え。り。他。の。悪。友。を。引。引。ま。す。  
 暗。く。夜。を。暗。く。し。良。く。女。技。不。耽。り。る。と。罪。免。れ。ま。す。は。れ。る。為。少年。の。思。慮。練。て。  
 伎。倆。の。強。弱。被。り。け。り。亦。不。便。ま。は。り。出。処。正。統。の。め。り。と。落。葉。を。女。塚。に。捨。り。り。里  
 正。と。初。と。と。里。人。們。皆。知。れ。し。と。證。人。と。願。ひ。ま。る。あ。ら。れ。恩。赦。の。御。沙。汰。と。て。朱  
 之。介。が。禁。獄。と。免。ま。る。と。ね。ふ。と。兩。之。面。を。及。び。り。あ。り。て。又。落。葉。の。獄。食。日。毎。々。小。食  
 物。と。餽。遣。し。て。恩。免。を。願。ひ。ま。す。と。の。趣。の。信。々。と。密。告。す。朱。之。介。の。飲。び。小  
 後。素。生。と。責。問。れ。し。と。落。葉。が。答。え。あ。げ。ま。す。招。道。ま。り。び。び。か。き。疑。ひ。解。け。り。  
 原。來。盜。賊。中。の。あ。ら。び。又。敵。の。間。諜。者。の。あ。ら。び。り。り。と。定。め。ら。れ。て。その。罪。輕。く。ま。り。り。

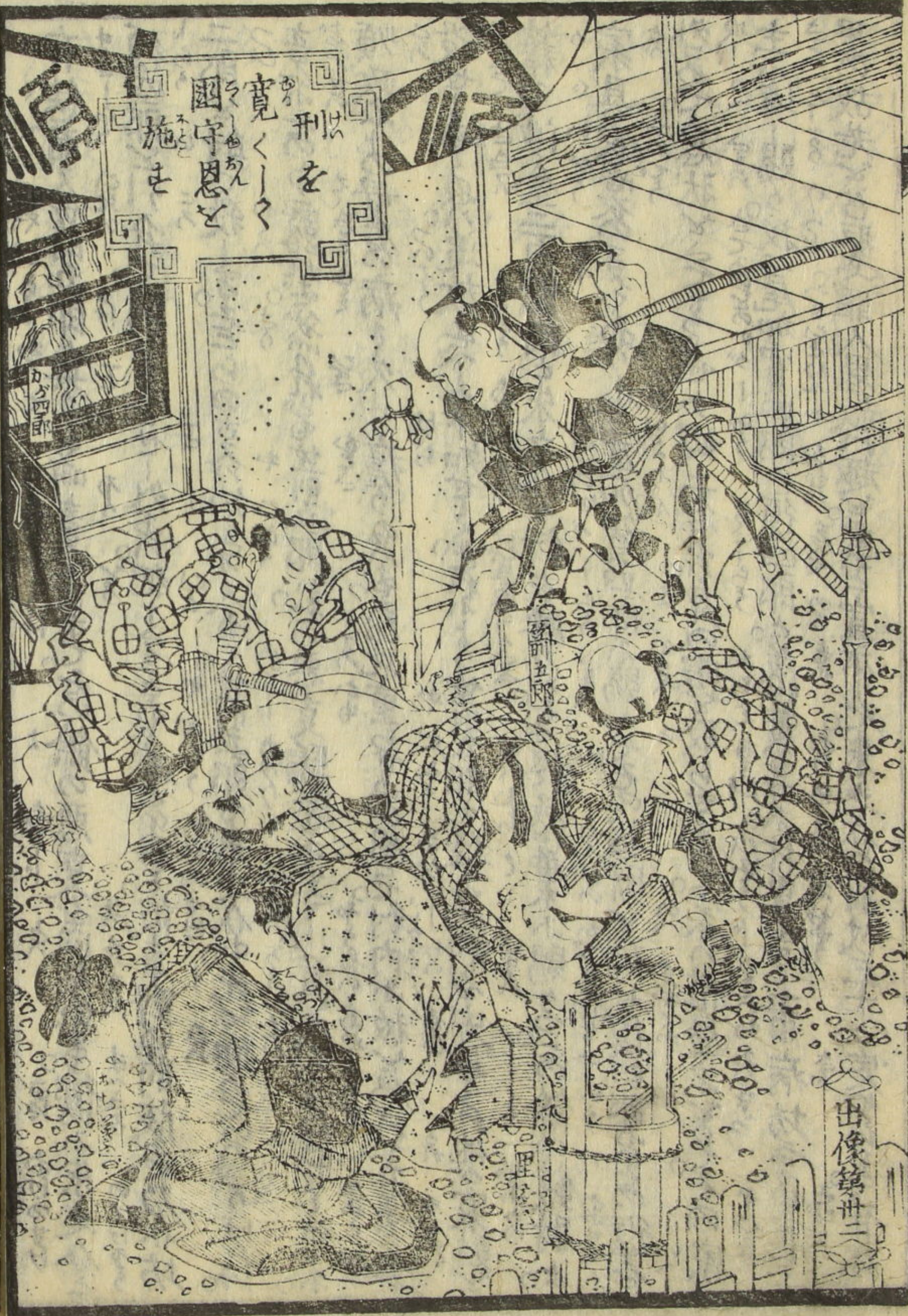
有。徳。而。又。前。五。郎。與。も。呵。責。と。直。と。と。餘。の。悪。意。を。問。れ。し。も。御。不。朱。之。介。と  
 復。四。郎。と。引。合。て。賭。と。ま。せ。し。外。の。犯。し。る。と。あ。ら。ま。し。と。の。三。彼。車。野。の。前。阪。を。乃。介。坊  
 二。郎。と。射。て。殺。し。る。と。ら。の。古。の。知。る。人。と。前。五。郎。も。朱。之。介。の。死。と。極。め。り。り。け。り。  
 竟。不。あ。る。露。れ。し。然。れ。も。前。五。郎。の。悪。意。騙。賊。等。一。首。と。刎。へ。と。設。せ。し。れ。不  
 順。政。の。母。君。病。久。く。瘥。り。ぬ。ま。の。比。重。ら。せ。ぬ。と。封。内。不。赦。と。り。て。君。逆。と。人。を  
 殺。せ。し。ぬ。追。放。と。下。知。せ。し。と。れ。れ。も。前。五。郎。も。極。不。死。刑。を。守。り。ぬ。他。が。家。財。を  
 籍。籍。と。沙。金。三。百。餘。兩。と。朱。之。介。が。行。衣。腰。刀。を。終。落。葉。不。賜。り。り。餘。の。錢。財。と  
 家具。衣。裳。の。多。く。の。三。尾。加。賀。四。郎。不。賜。り。り。その。損。財。を。補。せ。復。四。郎。の。行。徳。を  
 外。目。め。急。狀。と。せ。ま。る。女。婢。二。名。の。身。の。暇。を。取。り。ま。す。と。家。の。借。屋。を。と。り。その。家  
 主。不。返。一。賜。り。授。三。尾。加。賀。四。郎。と。復。四。郎。と。落。葉。并。小。比。曾。寺。上。市。病。坊。の。里。長。と  
 里。の。故。老。と。召。取。罪。人。恩。赦。と。趣。と。云。と。宣。示。し。て。朱。之。介。の。訓。杖。三。十。と。定。め。ら。る。一。廿。枚。殘





美少年録二冊卷二

大英寺



刑を  
寛く  
守恩と  
施す

出像第卅二

美少年録二冊卷二

大英寺



のふろく甚麽とぞ。同詰らる朱之介のたむら。騒々旬月と鎮めたる。あはれ頭  
 擡実の親も及ぶ。一慈悲鐘愛骨の徹り。膽銘と有る。髪と感  
 涙の外に。行状と慎ま。這洪恩を復す。と武藏へ  
 還らぬ。那要友の誠感され。不由禪師の帰菴と俟。君命と違は。禍の  
 及んと。倡道されて。奸計の陥り。人権を。愚痴軽才。面目。  
 目今。諸ね。従者乃介と坊三郎。折河。その時の日状。如來禪師  
 俟。今。帰菴。在下。東年。這地。運。仕。と。教諭して。注  
 進の。遣。一。在。主君の外。休。  
 古。安。以。購。波。毎。領。安。堵。身。今。廿。君の  
 此。受。也。危。又。在。額。似。外。の。視。宜。介。柄。を  
 剝。除。せ。大。人。の。ま。り。れ。と。宿。念。と。果。ま。及。び。武。藏。へ。還。る。の。日。復。額。髪。を

置んと。と。左。も。右。も。願。心。と。改。め。深。信。堅。固。時。節。と。俟。如。來。ま。る  
 君。命。と。違。は。其。侶。の。盡。心。の。空。ま。り。の。と。論。を。誠。ま。る。本。は。落  
 葉。と。袖。の。露。ま。り。斧。柄。の。と。泣。き。慈。悲。と。情。の。面。輪。枝。を。苦。く。悔。り。よ。た  
 ち。の。み。の。朱。之。介。福。散。る。不。樂。ふ。け。有。徳。而。朱。之。介。の。次。の。目。額。髪。を  
 剝。と。更。り。是。の。木。の。宿。所。と。落。著。心。苦。と。の。の。由。落。葉。毎。ま。り  
 誠。心。漸。々。化。せ。れ。先。非。と。悔。り。早。晩。正。首。と。立。働。斧。柄。も。睡。る。落。葉。毎。特  
 ち。の。賢。言。語。と。慎。と。使。役。の。心。を。脱。落。家。の。内。の。掃。除。戸。の  
 閑。由。も。の。或。の。糸。懸。の。出。納。小。使。錢。の。日。記。と。總。て。身。の。務。と。職。家。事。と  
 資。け。斧。柄。の。落。葉。と。愛。飲。今。番。の。心。を。脱。落。然。る。朱。之。介。を  
 大。く。識。り。里。人。の。落。葉。斧。柄。の。傳。稀。慈。善。善。貞。実。義。理。賢。心。標。と。傳。り。て  
 感。嘆。せ。る。の。朱。之。介。の。憎。ま。る。人。の。唾。も。七。五。日。と。世。俗。の。け。ん。以。の。あ。る。

善小與善人心流る水の底は枯くと亦何に異るる十室の臣も忠信あり是れ賢  
妻の世は有る死誠心より一御と感せりあまれば朱之介の遺言一末の陶をこそけれ

第三十六回

唐布と安かば暗賢義弟は遇ふ

却説光陰在昔一是年果敢多く暮る木芽若く春あつて如月中浣ふ  
るのけり朱之介の河内首尾の有敷系は心あり獨竊思重る此地の容子を問  
せんと倘又使を直されし謀られたる乃介坊とをせり不便何ぞ答やと見え  
やと腹を向ひ腹小答て分別も多し早昔と昔義小東國と出よと西國の春逆  
へ三稔との今や武藏の音耗絶るるを以てあつて扇谷朝貞の山内の  
管領と和睦し軍と合士卒と鳩て相摸る北條氏と戦ふと志をくく故に朱之  
介が久し歸り多きあり安否と訪ふ暇なく那造佛の一條へ他は任し度外小

措て閉戦防御は秘計を旋る軍旅は他支いさるけり信はし知るよむれたる落  
葉ハ一日朱之介も身邊へ招き近づくて身邊の侍を如來さるこの春や山  
より還りまきて在在菴さるる吾侪の侍はあつてあまの行状心さる

改りけり又小俣の甲斐あり禪師の師菴はせり故ゆゑあつてさるる不  
深信と意と東西整ひて御菴へ参りて君命と述許容をせり帰國ある  
と書寄る大けは告るるちり朱之介のそれとむる當惑の胸安るを額と柄と沈  
吟まると半响なるをうなむる頭を擡るそら欽ととて只悔らこの這身の衝沙金も  
布さ喪ひを今に贖ふ術も使用残り二百餘兩の沙金をるを贖を枉り那  
里へあるとも東西と目録と合され毛を吹く疵を求る支損ねてをひら作麼何と  
あつてと潜め何の不樂がげる顔をどうも目成さるその該のるる  
吾侪の侍と知らるるで嬌あつての由あつて談合敵するももる肝謀りく

本々。備の時の力を勤しと。死すは本意を遂させ。女婿宅母を義理立て。芥  
柄を必死と極れる。恩を忘れぬ。心裏恥たらず。何れ。や田園を地質小曲れ。の  
東西整へて。わが世んと。思ふ。昨夜芥柄の中。商量をせよ。と。沙金の不足。三百兩  
欲圓金。と。換。と。五百五十兩。之。教。平。と。あれ。ら。の。み。豫。下。の。それ。ら。る。身。入。母。と。五。口  
倍。あ。ら。る。ほ。ら。つ。る。と。され。沙。金。の。大。和。也。通。用。せ。ら。る。財。力。付。置。る。京。師。ま。も。て。め。た。く。  
死。せ。り。教。平。と。と。あ。り。の。誨。め。あ。ら。只。の。不。便。の。ま。も。て。隔。昨。歳。の。極。月。那。白。布。裁。分。を  
韓。檀。上。の。出。と。分。ち。て。替。り。せ。ら。れ。五。口。倍。の。初。に。大。に。け。ら。他。の。咱。も。常。に。織。る。布。の。と  
ち。で。唐。懸。布。と。二。布。は。裁。も。分。ち。ま。ら。ぬ。那。布。も。亦。あ。ら。ん。と。買。取。ら。る。東。西。中。は。は。ら。ぬ。  
あれ。も。沙。金。と。共。俱。に。京。也。買。取。の。教。平。で。那。白。布。の。裁。分。の。三。百。及。々。は。は。ら。ぬ。這。面。懸。ぶ  
唐。懸。布。の。本。幅。で。あ。る。と。一。百。及。々。と。足。り。ぬ。と。の。價。も。の。比。あ。ら。ぬ。と。人。小。妻。は  
一。兩。大。約。一。及。二。十。夜。あ。ま。り。で。買。取。ぬ。の。と。い。れ。ぬ。は。れ。れ。被。う。ち。令。と。百。九。十。兩。

金。多。く。た。整。正。へ。る。東。西。の。あ。ら。ん。吾。倍。と。二。包。金。の。貯。禄。の。も。と。か。ん。這。才。覚。の。胸  
裏。の。の。の。め。と。し。折。り。今。朝。を。も。も。里。長。刀。祿。の。這。裡。の。門。邊。を。過。り。れ。と。遠。く  
呼。入。と。て。猛。小。金。の。要。用。の。り。女。婿。の。出。世。の。筋。を。借。出。し。と。ぬ。り。實。火。田。園。を。還。す。と  
一。百。金。を。り。欲。く。信。り。と。密。か。ら。憑。り。長。刀。祿。の。兼。引。き。男。子。も。及。び。及。ん。身。の。たま  
表。裏。裏。さ。れ。咱。と。あれ。り。然。れ。も。火。急。の。ま。も。て。貸。ま。あ。ら。せ。て。間。を。合。せ。ん。と。も。咱  
們。が。金。の。あ。ら。ん。山。年。貢。を。預。り。積。金。を。し。た。暮。月。を。達。達。と。返。し。ぬ。り。田。園。の。の。の  
要。ま。し。と。の。備。け。と。い。れ。ぬ。か。も。胸。の。あ。ら。ぬ。と。女。婿。を。伴。う。と。理。宜。い。宿。所。を。あ。ら  
べ。の。折。渡。と。し。ぬ。り。と。不。期。を。推。し。と。の。の。山。古。婿。刀。祿。の。來。ぬ。と。も。の。死。身。を。目  
標。小。貸。金。之。證。文。寫。て。俟。死。小。印章。を。忘。れ。ぬ。り。と。辞。せ。り。と。耳。邊。示。し。と。そ。が。伏  
出。く。由。ら。ぬ。い。は。れ。は。れ。金。の。救。平。と。ら。ぬ。の。の。も。と。あ。ら。ぬ。の。心。の。秘。密。を。明。て。し。と。小。教  
お。朱。之。介。の。感。涙。坐。し。進。む。と。覚。を。恭。しく。額。と。つ。れ。過。世。の。る。契。り。も。有。け。ぬ。と。い

<sup>いふ</sup>とれなる身<sup>み</sup>の果報<sup>ぐわう</sup>を<sup>も</sup>あ<sup>や</sup>し<sup>け</sup>れ如<sup>ごと</sup>如来<sup>りやうらい</sup>禪師<sup>ぜんじ</sup>の見<sup>けん</sup>參<sup>さん</sup>して君命<sup>きんめい</sup>も<sup>も</sup>違<sup>ちが</sup>ひな<sup>り</sup>歸<sup>かへ</sup>  
<sup>こ</sup>困<sup>こ</sup>して金<sup>かね</sup>を<sup>ど</sup>うの<sup>の</sup>遠<sup>とほ</sup>くを<sup>も</sup>返<sup>かへ</sup>すま<sup>は</sup>つと<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>ふ落<sup>お</sup>ち<sup>お</sup>ち<sup>お</sup>下<sup>くだ</sup>り<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
<sup>こ</sup>思<sup>おも</sup>ふ金<sup>かね</sup>を<sup>ど</sup>う返<sup>かへ</sup>されんと<sup>と</sup>取<sup>と</sup>替<sup>か</sup>へ<sup>ら</sup>ふ間<sup>ま</sup>を<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>を<sup>も</sup>浮<sup>う</sup>け<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>を<sup>も</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
<sup>あ</sup>恩<sup>おん</sup>美<sup>み</sup>の<sup>の</sup>為<sup>ため</sup>に<sup>も</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
<sup>あ</sup>只<sup>ただ</sup>深信<sup>しんじん</sup>を<sup>も</sup>肝<sup>かん</sup>要<sup>よう</sup>と<sup>も</sup>論<sup>ろん</sup>して<sup>も</sup>告<sup>こ</sup>げ<sup>て</sup>鳴<sup>なり</sup>き<sup>を</sup>て<sup>も</sup>斧<sup>お</sup>柄<sup>へ</sup>々<sup>々</sup>と<sup>も</sup>呼<sup>よ</sup>び<sup>か</sup>け<sup>て</sup>  
<sup>あ</sup>ふい<sup>ふい</sup>ふの<sup>の</sup>吾<sup>われ</sup>俗<sup>じやく</sup>の<sup>の</sup>目<sup>め</sup>今<sup>いま</sup>里<sup>り</sup>長<sup>ちやう</sup>刀<sup>たう</sup>祢<sup>ね</sup>の<sup>の</sup>宿<sup>しゆく</sup>所<sup>じよ</sup>百<sup>ひやく</sup>々<sup>々</sup>葛<sup>くわ</sup>葛<sup>くわ</sup>電<sup>でん</sup>の<sup>の</sup>衣<sup>い</sup>物<sup>ぶつ</sup>出<sup>で</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
<sup>あ</sup>柄<sup>へ</sup>の<sup>の</sup>取<sup>と</sup>り<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>取<sup>と</sup>り<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>取<sup>と</sup>り<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>取<sup>と</sup>り<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>取<sup>と</sup>り<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>取<sup>と</sup>り<sup>ま</sup>  
<sup>あ</sup>親<sup>おん</sup>子<sup>し</sup>中<sup>ちゆう</sup>脱<sup>だつ</sup>して<sup>も</sup>舊<sup>きゆう</sup>衣<sup>い</sup>履<sup>り</sup>其<sup>その</sup>間<sup>ま</sup>小<sup>せう</sup>鼻<sup>び</sup>紙<sup>し</sup>折<sup>せ</sup>つ<sup>つ</sup>懐<sup>くわい</sup>へ<sup>て</sup>も<sup>も</sup>通<sup>とほ</sup>と<sup>と</sup>通<sup>とほ</sup>と<sup>と</sup>通<sup>とほ</sup>と<sup>と</sup>通<sup>とほ</sup>と<sup>と</sup>  
<sup>あ</sup>頭<sup>かう</sup>巾<sup>きん</sup>引<sup>ひ</sup>提<sup>てい</sup>て<sup>も</sup>朱<sup>しゆ</sup>刀<sup>たう</sup>祢<sup>ね</sup>たの<sup>の</sup>む<sup>も</sup>斧<sup>お</sup>柄<sup>へ</sup>苗<sup>めう</sup>守<sup>しゆ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
<sup>あ</sup>柄<sup>へ</sup>の<sup>の</sup>取<sup>と</sup>り<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>取<sup>と</sup>り<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>取<sup>と</sup>り<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>取<sup>と</sup>り<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>取<sup>と</sup>り<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>取<sup>と</sup>り<sup>ま</sup>

<sup>あ</sup>色<sup>しき</sup>を<sup>も</sup>め<sup>め</sup>松<sup>しょう</sup>の<sup>の</sup>標<sup>ひょう</sup>と<sup>も</sup>松<sup>しょう</sup>葉<sup>えふ</sup>茶<sup>ちや</sup>の<sup>の</sup>真<sup>ま</sup>織<sup>お</sup>絹<sup>きゆう</sup>の<sup>の</sup>長<sup>ちやう</sup>財<sup>さい</sup>布<sup>ふ</sup>の<sup>の</sup>餘<sup>よ</sup>杖<sup>じやう</sup>と<sup>も</sup>草<sup>そう</sup>鞋<sup>げ</sup>と<sup>も</sup>婢<sup>へい</sup>妾<sup>せう</sup>們<sup>だんなら</sup>  
<sup>あ</sup>共<sup>とも</sup>侶<sup>りよ</sup>不<sup>ふ</sup>東<sup>とう</sup>西<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>多<sup>た</sup>程<sup>じやう</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
<sup>あ</sup>種<sup>しゆ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
<sup>あ</sup>一<sup>いつ</sup>柄<sup>へい</sup>杖<sup>じやう</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
<sup>あ</sup>鐘<sup>しゆ</sup>音<sup>おん</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
<sup>あ</sup>介<sup>けい</sup>と<sup>と</sup>斧<sup>お</sup>柄<sup>へ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
<sup>あ</sup>合<sup>あ</sup>と<sup>と</sup>朱<sup>しゆ</sup>之<sup>の</sup>介<sup>けい</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
<sup>あ</sup>死<sup>し</sup>を<sup>も</sup>救<sup>きう</sup>れ<sup>る</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
<sup>あ</sup>買<sup>かい</sup>取<sup>と</sup>り<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
<sup>あ</sup>廿<sup>じふ</sup>一<sup>いつ</sup>包<sup>ぽう</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>





出像第卅三

十五



朱之介

かのち

おことあまの影を  
 たるへぬ花より  
 もれたのゆゑ  
 人のあとのま





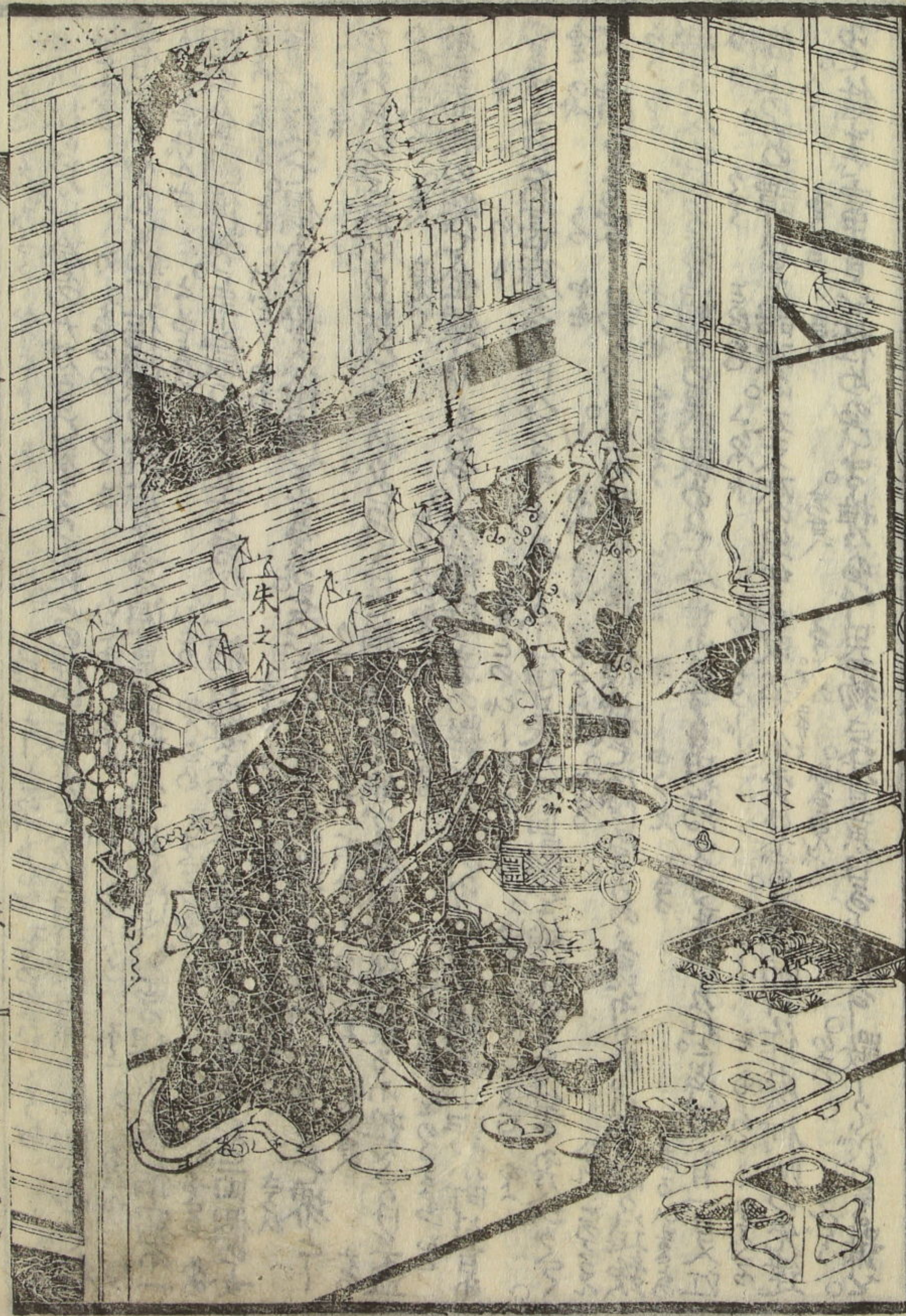
盡き出遣離合時の前知多し。あま生涯の長別離を豫てぞ知るあり  
 梅の盛過ゆる竹色に北風寒は日雨は日置霜踏むる影を南をて目送り多し。却  
 説未朱之介の目類り小路を急ぎて日暮を浪速津宿を投り次の日の黄昏  
 比小京の三條多客店の著すける京師の素も憚りある管領家高國入の方さま  
 人か知るる工のあそむを影護くは小朱之介が故主多し。未日西元盛を滅亡せし  
 よりそや五六年を歴く高國入道の武威衰へあそく三好小攻悩まきく伊勢路へ  
 没落あゆみぬ。世の風声はゆえり。心安しとあそむ。彼西殿あはれ  
 まふ怖れあそくその明の朝より洛中を編麻がて沙金と唐布を買ふはる。東西へ  
 悉く輻輳するといふ多し。花浴るれも應仁以降。年々の兵火あはれ。良賈も顔  
 轉きれば錦綉店の中唐縣布はる。兎坊も三百兩の沙金を藏奪りたるけり。  
 朱之介のあそく為体。且呆れ且憂く西三月洛外を隈もく涉獵しるも音亦

困下東々人同ふある人の誨多し。和泉の左界も其の町小船積荷  
 三太との家家あり。家瑞と浮宝屋と喚做し。浪木大内家。由緒あるはる。  
 周防の山口も枝店あり。あそく東船の唐物多く引請て買置せし。この年  
 沙金も亦那里あり。兎右自由左界へあそく徴めあそく町屋も示せし。朱之介の  
 秋は次の日浪速を引く。あそく又人同ふ京も守り違ひはる。又その次の日左  
 界も到り。那浮宝屋の市麩とる。小店舗も五間をる。過半の細骨の欄すあ  
 ち小厮五六名居たり。登時朱之介の件の小厮們あそく對ひ。此まも死とあそ  
 け。俺們の天和多上市の坊賈も朱之介と喚ぶ。あそく唐木綿二百反と沙金三百兩  
 なる買多し。今番京へ赴け。那里の兵火の為荒れ多し。あそく然る東西の  
 ひろくと敷居の多し。あそく人の誨小任と。又その津も多し。且唐縣布をせせると  
 小厮們あそく多し。這里へ杖せんと。上坐も推登し。寒暖は徒長









朱之介

北



昔歲相歡  
竹馬友  
今宵再會  
喪家狗

出像第卅四

とふ秋の比屯倉の大刀自の... 次は年大夫次翁の腰痛を湯治せんと... 従  
 者二名を... 信濃の筑摩... 温泉の村... 程の相宿...  
 個の金剛禪... 年歳の二十五... 一個の嬖妾の廿歳可... 美入を西個の女  
 童を後へて... 温泉... 所の大夫次翁と重紙門一隔... 塚と一  
 たる... 相譚... 他が為体と執視... 推... 盃  
 盤器物の... 金銀... 况那嬖妾の艶妖... 衣通姫小野小町... 昔  
 の... 甚麻... け... 今... 美人の面影... 筆...  
 文は演... 写一易... 世の萬々金と積... 優... 誰...  
 樂... 過世の果報... 今世... 自由... 一日又江  
 湖上の譚... 語次... 大夫次... 最... 尊師... 作麼何... 先達  
 を... 富貴を極... 推... 器物... 數...

古金

知る欲... 人... 京師... 北白川... 山... 有  
 驗觀... 古金... 唐... 煨金煉銀... 法...  
 黃... 富... 大夫次... 訶... 古... 古備大臣... 仲... 弘法大師... 他  
 渡唐... 煨金煉銀... 法... 願... 教... 又他... 請  
 古金... 聽... 頭... 子... 相... 他人... 爲... 口... 向... 秘  
 法... 教諭... 人... 交易... 何... 彼... 祈... 望... 東西... 進... 秘  
 示... 類... 舌... 道... 釋... 領... 旅... 宿... 類  
 友... 結... 翁... 望... 深... 信... 堅... 固... 人... 今... 默... 止... 論... 類  
 秘... 方... 必... 外... 海... 一... 枚... 件... 一... 方... 九... 還... 丹... 名... 子... 是... 則... 唐... 山

美入金三車巻五

道士丹容の傳法也。咱先祖渡唐の目傳授せられ神訣。且その法も遵く十  
 兩の金を煉取らんと欲する。一兩の真金とこれ母金と成るなり。かて又九兩の真  
 銅と汞と相加え別れ又茶種を加えて稍久く煉るとたの黄銅と汞と化して真  
 金と成る。銀と煉るもその法はこれと相同し。疑ひの咱法術を。眼前の各をわきま  
 相加えて法を以て火を被く。煉ると九半兩なる。火を退けて蓋とこれ果しと黄銅も  
 汞も化して金と成る。誰か知るか。此の法は一兩の黄金と縮めて粟  
 粒なる。黄銅と汞を加えて稍久く煉るとたの黄銅と汞と盡く。消滅す。  
 那縮金のと乾乾してと大きき。便是騙賊の術也。その黄金の種る。わきまの  
 大分くるは。愚俗よく購され。実金の種る。と。大分くるは。愚俗よく購され。実金の種る。と。  
 大夫次もその類也。偽る奇特とて。且果れ且感と。只管不為。美法とて。合笑

舌愈小對ひ。秘法實至妙なる。法は瑣細の金と。隨の數を煉取  
 次。老拙優劣。わね。家ある。此の貯祿あり。ある。限の。母金と。願六  
 黄白。富る。旅中。別。東西。此。是。莫大。言。思。尊師  
 十兩。取。扇。載。贈。舌。道。人。辭。受。負。道。實。這。東西。三。の。是  
 盤纏。小。去。如。納。め。頻。不。薦。め。果。一。は  
 室。女。童。直。白。川。お。か。別。宅。赴。く。べ。の。便。大。夫。次。の。是  
 屋敷。の。序。廣。也。離。坐。席。の。便。宜。脚。小。連。を。付。か。



ちより先臨志あり。三十七の湯治を先拙痛所の愈る。導師の随意に存する下。  
 高の義を願ひしものと辭を盡し意を演じて直倡ひ誘引され古命道人沈吟して貪  
 道宿所不母親の侯のぐりぬれん。親遊まの切なれに枉て同道致志。この大夫  
 次の飲ひ。あつて妻の這地を去て齊一掃路の赴くべし。と約束を言程不吉命の聲  
 妻を引合と深の小櫃と呼做まのえ見まきまは逗留中成厄會あるまうら。那女童  
 們の一人の打出一人の丁兒と喚做し。あ見まらういとのふ大夫次の惚々と小櫃を打  
 寧小向後を契りて遠く。おの準備をまされ。其身の坐席へ退はけ。有慈而る詰  
 明大夫次の件の小櫃と女立も行轡ふら兼てこの餘の物の馬不駄ふ。命道人と  
 相俱に後者一名を隨へ。宿を出て近江の福富村に投ぐ急げの畢竟大夫次の舌  
 命と宿所不伴ふ。又甚麼る原説話ある。と次の巻の解分ると聴録の。

近世説美少年録第三輯卷之三終



和  
 漢  
 代  
 年  
 序  
 吉  
 中

